

緊急速報 とびきり鳥取夢発信!

—山陰・夢みなと博覧会—



衛星2元生中継大成功!! 全国CATV 105局にむけて

1年前から計画された「夢・みなと博覧会2元中継」は、旧地域ビジョン委員会を中心として、6月からは特別委員会のメンバーも加え、幾多の打ち合わせ・討議・録画・編集といった膨大な作業を経て、8月3日、見事に結晶した。前日2日の昼からリハーサルが始まり、その後深夜にかけて機材の搬入・設置に突入、目途が立つて会場をあつめたのは午前3時を回っていた。ウトウトする間もなく、再び午前7時には集合し、山口良一氏も入れたりハーサル。本番直前になって、その場でしか分からない問題点が次々出てくる。皆、目が次第につり上がり、顔に飛んでくる相手のツバをぬぐう余裕もない。徹夜明けにカンカン照り、暑さに緊張・不安感でやたらに喉が渇く。



それでも本番が始まってしまうと、開き直りか、意外にもうまく進行していった—かのように周りには思えたが、目次ディレクターは、中継車の中で叫び続けていたらしい。しかし番組が終わったとき、それは喜びの雄たけびにかわった。夜中に降っていた雨も、中継に合わせるように快晴となり、一大イベントは大成功に終わった。この中継の準備にかかわった会員の皆さん、山陰ビデオシステムの皆さん、高知の皆さん、多大なご協力を頂いた関係者・OBの皆さん、何より「中央会のメンバーで作りた」として外部のスタッフを最小限にし、会員を辛抱強く調教し続けた目次委員長、ご苦勞様でした。

●●●●●●●●●● 新入会員紹介 ●●●●●●●●●●

新入会員カルテ
氏名: 楠 明彦 血液型: AB
企業名: 有限会社楠計量機
総務委員会に配属されました楠明彦です。
『壁にボールを弱く投げれば、弱くしか跳ね返ってこないが、強く投げれば、強く跳ね返ってくる。』と言うことばがありますが、向う6年間、青年中央会活動を頑張ってやっていきたいと思ひます。
どうか宜しくお願い致します。



8月例会案内

とき 8月20日(水) PM6:30~
ところ 米子国際ホテル
テーマ 「上手なしかり方ほめ方」(父親の立場)
講師 小谷悦夫
担当 政治行政委員会
※今の時代にタイムリーな内容の演題にて開催しますので奮ってご参加下さい。

8月役員会報告

8月定例役員会が8月5日(火)、米子食品会館に於いて開催された。
当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 8月、9月例会開催の件
(2) 親睦会事業実施の件
(3) 中小企業全国大会参加の件
(4) その他
※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

編集後記
「なんで、月末になアと台風ばかり来うだア。」これが現在、原稿に向かう掛け値無しの気持ち。みなと祭りが中止になることなど、子供の頃より覚えが無い。エルニーニョかサンタルチアか知らんけど、冗談も程々にせい!と怒ってみても後の祭り。ただ、ただ、トライアスロン当日の日射が懐かしいばかり。「泣く子とお天気には勝てない」を教訓にしつつ、今年も人知を尽くして、素敵なお手紙をお届けします。

聞いてごしない Part 11

「聞いてごしない」も今年でpart11、ここまで来ると止めるに止められない、担当者としては頭が痛いことである。まあ愚痴はこの位にして本題に入ろう。

小原丸がいよいよ出航した。今年のスローガンは「自己責任」である。ところで会員の中央会に対する責任とは何だろうか、それは人によっていろいろあるだろうが、少なくとも例会、委員会に出席することではないだろうか。

月に1回ずつの出席ができない会員が多くいる、「友愛」のときばかり出席し「研鑽」と「奉仕」のときは出席しないそんな会員もいる。中央会は仕事か第一ではある、しかし仕事の都合もあるだろうが、それをやりくりするのも自己研鑽である。例会にしても委員会にしても準備をする人たちは忙しい中やりくりをしているのだから、ぜひ出席して欲しいものだ。

また、例会の講演がつまらないから欠席にしようとか、委員会がおもしろくないから欠席にしようとか、そういう会員も多いのではないだろうか。しかしそれは受け身の考え方で、それならば何故自ら出席しおもしろい例会、委員会づくりをしようとする努力しないのだろうか。

もう一つ、責任といえは例会等の出欠の返信がある、これが返ってこない人が多くいる。会員である以上返事を出すことはあたりまえである。出欠の返事もできないようでは会員としても失格である。

今迄毎年のように出席が問題となってきたが、根本は会員一人一人の意識の持ち方である。小原会長のスローガン「自己責任」を各自が再認識し今年一年頑張ろうではないか。…かく言う私も愚痴は止め今年一年頑張ろう…

きのこ

「自己責任」 —Responsibility—

雄 飛

第23号 1997.8.

●発行人: 鳥取県西部中小企業青年中央会 ●編集責任者: 足立 聡 ●会員数: 131
●会長: 小原 得雄 ●印刷所: 東京印刷株式会社

ご挨拶



会長 小原 得雄

今年度鳥取県西部中小企業青年中央会の23代会長を務めさせていただくことになりました小原です。

さて、今年度は、「自己責任」—Responsibility—をスローガンに掲げさせていただきます。

今我が国は、「経済社会構造改革」を急務として、その方向性を模索している最中にあります。その改革案の中で頻りに使われる言葉に「自己責任原則の確立」という言葉があります。今の時代認識の中で最も大切なキーワードだと思ひますので、この「自己責任」という言葉を今年度の中央会活動のスローガンに掲げ、今後ますます厳しくなっていく経済環境のもと、会員一人一人が積極的に意識改革を図り、研修に努めていただきたいと考えております。

また今年度は、①「出席したくなる例会作り」、②「活力ある委員会活動」、③「出席率向上」、④「有望な新入会員の発掘」と4つのテーマを掲げました。

このテーマのうち、「出席したくなる例会作り」については、講演会化した例会(受身的参加型)を今一度見直し、自主的全員参加型の魅力ある例会作りを工夫したいと考えています。

「活力ある委員会活動」は、各委員会がテーマに沿った密度の濃い勉強を重ね、活気溢れる委員会活動を展開していただけるよう様々な研修課題を提示させていただきました。

「出席率向上」は、「古くて新しいテーマ」です。この問題を克服できずにいる原因は、会員の帰属意識に温度差があるということだと思いますが、組織の一員である限り、出席は当然の義務であるはずで、自らが求めていかなければ、何も生まれません。会のさらなる活性化はもとより、青年中央会を企業人の研修の場として捉え、多数の幹部社員の入会に努めていただいている会員所属企業に対し、その期待に十二分に答えていくためにも、今年度は「出席率向上」を徹底的に意識していただきたいと思ひます。

また、「有望な新入会員の発掘」については、今年度も随時入会制とし、入会パンフレット等を十二分に活用し、会員一人一人となって取り組んでいきたいと考えています。

会員の皆様、以上の点を充分にご理解いただき、「英知・友愛・団結」の綱領の下、従来に増して斬新な発想と行動力で、活発でヤル気ある、本気の西部青年中央会を実践して頂きますようお願い致します。



副会長 秋田 導秀

このたび鳥取県西部中小企業青年中央会の会長に就任致しました。西部の皆様には何かとお世話になりますが宜敷くご協力の程をお願い申し上げます。

さて、近年の中小企業を取り巻く経済環境は大変厳しいものがあります。金融ビッグバンは銀行・証券・保険会社に抜本的な変革をもたらしますし、ボーダレス社会の進展は大企業の地方経済への参入という形で地方の中小企業を圧迫してまいります。何もしなければただ消え去るのみ、という状況が現実的に近づいているのです。

こうした環境の中で、阿部元会長はかつて自らの会社の利益のために中央会活動を役立ててもらいたいと力説しました。松本直前会長はイノベーションをスローガンに会員の意識の高揚を求めました。小原現会長は自己責任を強調しています。企業利益の確保、イノベーション、自己責任は、歴代会長が中央会活動において皆様に求める基本的かつ現実的な理念なのです。そうした目的意識の上に、英知・友愛・団結を深め、より有意義な中央会活動を送ってもらいたいと願っています。

私は、この一年間のスローガンに「交流」という言葉を選びました。単に飲み友達を作るという程の交流を期待してはなりません。イノベーションと自己責任の元に企業の発展を図ろうとする意識を共有し、より有意義な会員相互の交流を求めているのです。更に鳥取県は一つ、東中西は一体という標語もそうした意識の共有の元に、より実践的な活動でなければ空しいものと言わざるを得ません。

私は微力ながら、大いにやる気のある会員の皆様のために東中西の交流基盤の整備に少しでも役に立つよう努力してまいりたいと思ひます。どうかこの一年間の活動が実り多きものでありますよう心から願いつつ私の就任のご挨拶といたします。



副会長あいさつ



問 真希夫

この度、小原会長より副会長という大役を仰せつかりました間です。

不安ではありますが、私自身本年度で卒業という節目でもあり、在籍十年本当に御世話になった青年中央会への御礼奉行と思い、またそうさせていただく事が、自己研鑽へと結びつくと信じ、引き受けさせていただきました。

副委員長、委員長、副会長と経験させていただくなか

で、会員皆様方の心あたたかい思いやりを、感じている所です。

担当委員会は、経営委員会と、21地球委員会です。

本年度のスローガンである「自己責任」のもと、仕事もがんばりながら、小原会長の御指名に恥じない様、執行部と会員皆様との橋渡し役として微力ながら努力したいと思います。

どうかこの一年、よろしく御願います。



足立 聡

このたび、副会長を務めさせていただくことになりました足立です。一昨年に続き二度目の副会長という大任で身の引き締まる思いです。中央会に入会して早くも十年が経ちました。この間、多くの先輩諸氏や仲間にも恵まれ多くのことを教えていただきました。その一部でもお返しすることが私にとっては中央会に対する「自己責任」ではないかと思っております。

本年度は、長谷川委員長の政治行政委員会と山中委員

長の広報委員会を担当させていただきます。政治行政という硬い問題をまじめな委員長がどのように柔らかに料理していくか、また中央会の顔である広報誌「ハンサム」を単身赴任の委員長がどのように編集するのか、担当副会長として見守っていきたく思っております。

小原会長のいわれる「自己責任」を肝に命じ、会長の長い足？を引っ張らないよう精一杯頑張りたいと思っております。今年一年どうかよろしく御願います。



堀田 収

本年度、副会長をさせていただきます。どうぞ一年間よろしくお願い致します。私は地域ビジョン委員会と情報メディア委員会を担当させていただきます。

地域ビジョン委員会は、小原会長より継続委員会として広域合併をよりきめ細やかに取り扱うよう方針をいただいております。

また、情報メディア委員会は、情報通信の高度化にともなう諸問題を取り扱うよう方針をいただいております。本年度、小原会長は、自己責任をスローガンとしてい

らっしゃいます。私は副会長として、会長の方針、考えを両委員会に充分理解していただき、会長の方針を実現していただくと同時に、それぞれの委員会が自己責任において、委員長を中心として自由に楽しめ自己表現・自己実現していただけるようお手伝いをさせていただきますと思っております。

何分経験不足の私でございますので、厳しくご意見を賜りますようお願いいたします。



土井 一郎

青年中央会第23代小原会長のもと、副会長を務めます土井一郎です。微力では有りますが一生懸命やります。宜しくお願いいたします。

境高校の先輩でもある小原さんに5月頃でしたか「土井ちゃん、副会長お願いします。あんたもそういう歳にきとるけん、引き受けなさい。」と言っただき、「はい、ありがとうございます。私も40歳がきますから・・・。」と、まとまらないお返事をした。頭の中で、「私も40歳かあ・・・」と改めて思い、そういえば確か故並河純さんの遺稿集「松明のごとく」の中に「年四十にして」という文章があったなと、早速読み返してみた。その文章の中に、「中国の孔子の話として3つほどおもしろいことがある」と書いてありました。その1「四十而不惑」(論語第二)・・・「四十になれば世俗

にとられること無く、じっくりと腰を据えてやろう」その2「年四十にしてにくまる。それ終わらんのみ」(論語第十七)・・・「四十になって人に憎まれるようではお終いだよ」

その3「後世畏るべし。いづくんぞ来者の今に如かざるを知らんや。四十、五十にして聞こゆることなれば、これまた畏るに足らざるのみ」(論語第九)・・・「後輩諸君を恐れなくてはならない。どうして今後の人が今の人達に及ばないということがあろうか。だが四十、五十になっても世間に認められないようでは、この人たちは恐れるに足らないよ」

いずれも厳しい言葉である。自分への戒めとさせていただき、改めて「四十而不惑」を年頭の覚悟とさせていただきます。

ながりをつくっていく場所でもあると思われます。それ故に、テーマである「自己責任」が大変意味深いものとなるのではないのでしょうか。

今回、総務委員会(角田祐司委員長)を担当させて頂くことになりました。総務委員会は例年裏方として、縁の下の役割が多かったように思われます。今年度は各種行事の段取り、進行等の役割は勿論ですが、平成元年改正以来の規約改正案作りにも委員長を中心として、着手していこうと考えております。

私自身まだ若輩者でありますので、皆様に助けて頂きながら、皆様と共に一年間よりよく成長したいと思っております。今年一年どうぞよろしく御願致します。



山本 良文

この度、副会長として今年度一年を活動させて頂くことになりました。

入会以来九年が経ち、その年々にお世話になりました先輩の顔が思い出されます。その先輩方と自分とを比較して、副会長としての重責が全う出来るのかという不安と、やらなければならない気負い、焦りが混じりあって複雑な気持ちでいっぱいです。

西部青年中央会の伝統である、英知・友愛・団結を礎として今年も第一歩が踏み出されました。今年度は、会長の提唱されている「自己責任」がテーマであります。全会員一人ひとりが、自覚を持って取り組んでいく必要があると思っております。中央会活動では、仕事とは違った組織運営の勉強をするとともに、中央会を通して人とのつ

中央会選手みごと完走!

一生燃焼 一生感動 一生不悟 野嶋 功



前週までの梅雨空が嘘のような太陽のもと、汗にまみれながら応援いただいた皆さん、ありがとうございました。出場したすべての選手を代表して感謝申し上げます。

第6回大会で初めて中央会として応援団を組織し、その一員として選手たちに声援を送ったのがきっかけで、気が付いた時には第8回大会のスタートラインに立っていました。爾来、10回目のスタートができ、無事ゴールテープを切ることができたのは、皆さんの大会に対する絶大な協力と私たち選手に対しての暖かい声援のおかげと思っております。総合タイム10時間45分21秒(253位)は、目標とは大きくかけ離れた残念な結果ではありましたが、年々練習に割ける時間が少なくなる中で、元氣よくゴールできる幸せを感じながら、体と周囲の人々が許してくれる間は、もう少し我が俵をやらせていただければと願っております。

皆さんに感謝の気持ちを表現するのに、ありきたりな言葉しか持ち合わせない自分に歯がゆさを感じながら、やはりこの言葉で締めくりたいと思っております。

「ありがとうございました。」

第17回皆生トライアスロン大会を終えて 和田 健二

今年で17回目、皆生大会のスタートラインに立つ。トライアスロンの中で一番好きな瞬間である。辛い長い一日の始まりでもある。

今年も酷暑との闘いになりそうな朝からの好天気である。年齢を考慮して自分のペースで行こうと自分自身を説得している自分が以前と違っている。やはり歳のせいかな?

昨年と同様に自分自身の力量を熟知しているの、最後方よりのスタートである。予定通り、スイムは500番台のゴールである。当然だが、バイクラックには殆どバイクがない。今年は特に?は動かない。人間形成ができたのか?いや歳のせいである。

バイクは、自分では得意種目と思いついてきたが、どうやら世の中は変わっていた。途中何名かを抜けるのは、自分より年配者か数名の女子選手である。ゴールをしてみたら予定時刻より30分以上も遅いゴールである。

しかし、ランは得意である。得意はずだった。違う!何かが違う!足が重い。足が痛い。ランスタート直後から、こんな経験は初めてである。ヨシ!完走を目標にしよう!とランスタート5分後には心に決めていた。人間がまるくなったものだ。苦しいスタートからの42キロがこんなにつらいものとは、初めて経験した。エードステーションまでは絶対に走る。その間は絶対に歩かないと自分自身に誓った。唯一のトライアスリートとしてのプライドである。エードが遠くて待ち遠しい。別にそこで何かを取るわけではないのだが。只、立ち止まりたいだけである。

スタートしてから11時間少々、やっとのゴールである。もう走らなくていい。やっと立ち止まる事が自分から許された。長い暑い一日であった。

河端水産A S、境三中A Sの青年中央会の方々のご声援がなければ、絶対に今年完走はできなかったと痛感しております。暑い中、本当にありがとうございました。

トライアスロンを振り返って 長谷川 一成



今回3回目のチャレンジとなった皆生トライアスロン。私は、天国と地獄の両方を垣間見た気がします。今年の完走は様々な感慨をもたらしてくれました。一競技者として、多くの方々に支えられた完走なんだと改めて実感しました。そもそも、練習不足を取り戻そうと無理な練習をして右

股脛の肉離れを起こしたのが6月の半ばでした。それから爆弾を抱えた練習が続き、気ばかり焦り、もっぱら筋力トレーニングに励みました。しかし、そんな事でどうかなるような皆生では、やっぱり無かった。

大変な道のりでした。地獄の道のりです。大山の丸山辺りで最初の大靛部の嶺を越え、名和で2回目を越えた時は正直情けなさど不安で、目の前が真っ暗になりました。続くランでは境の折り返しの後、右膝が遂に壊れてしまい、歩くのが精一杯となり、しんかわストアA.S.まで、歩きました。その時最終ランナーと分かっていたし、自分1人のために多くのボランティア、スタッフが仕事を続けなければならないことに申し訳ない気持ちで一杯になり、遂にリタイアを覚悟した時、その場に居合わせた多くの方々のエールを頂き、どうせなら本当に両膝がぶっ壊れるまで走ろうと決意しました。それからの9キロは膝の痛みも忘れ、夢中で走りました。どうにかフィニッシュアストリートに帰った時、前2回の時には味わえなかった感慨が込み上げてきました。これ以上言葉も無い、どう言ってもいい分からない感慨です。天国でした。

本当に、多くの方々に支えられて完走できました。ありがとうございました。皆様に心より感謝申し上げます。来年はこの様な失態を来さぬよう精進に励むことをここにお誓い申し上げます。拙文の締めと致します。本当にありがとうございました。

トライアスロンを振り返って 松岡 正高

スタッフ及びボランティアに参加されました会員みなさん、暑さの中長い間、ごくろうさまでした。みなさんのおかげで一日楽しい思い出が出来ました。



'95年出場の際は、初めての事で完走できるかどうか緊張感のある大会でした。'96年は、体の調整がうまくいかず苦しい大会でした。今年は、前回よりも良い結果を残したいと思大会に望みました。

長雨も終わり梅雨も明け、大会日和になり、朝、壮行会での萬田応援団長の緊張している姿を見ていたら冷静になってきました。スイムは、ジグザグに泳ぐのでコースを離脱しないよう気をつけました。今回はバトルで段々蹴られの状況でしたが、タイムは思った通りに上りバイクへと移りました。今年は、エード・ステーションでなるべく休憩しないと宣言した手前、積極的にレースをしましたが、思ったよりタイムが伸びず実力のなさを痛感しました。ランに入り下腹と胃の状態が悪く、調子にのれず苦痛しましたが、風が思いのほかさわやかで助かりました。皆生観光センター交差点を曲がりゴールのアナウンスの声が聞こえ、フィニッシュアストリートに入るといまままでの苦しく辛いことを忘れず。6時17分42秒ゴール。前回よりも良く満足しています。コース上、行き先々の会員みなさんの「松岡ガンバレ」の声援のおかげで苦しい時の励みになりました。お礼申し上げます。

河端A.S. 宮廻 裕和

トライアスロン参加の選手皆さんらびにエイドステーションでのボランティアの皆さんお疲れさまでした。また、マラソン部・ボランティア部の皆様、準備段階から撤去までほんとうにご苦労さまでした。

今年は、いつもの東亜エイドから河端エイドと初めてのことだったのでとまどいもあったかもしれませんが、皆様のご協力のもとに無事終了することができました。しかし、残念なことに、各委員会よりふりわけてもらった予定者のうち数名欠席でした。その結果、人員配置が大幅に変更になり朝10時から夜10時までフル出場の会員の皆様に、何回も立っていただきました。ボランティア参加名簿に名前がのった以上は、責任をもっていただきたいと思ひます。多くの方にその分の負担がかかります。来年は、そういうことがないようによろしくお願いします。



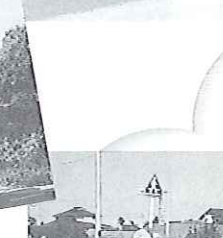
境港A.S. 岩田 慎介

第17回皆生トライアスロン大会が、絶好のコンディションのもと7月20日開催されました。

今年は、山陰夢みなど博覧会開催中のため、境港折り返し地点はコースと共に変更、米子空港方面から竜ヶ山地区を通過し境港市立第三中学校を折り返すコースとなり、境港地区担当の我々青年中央会は不安を感じながらのボランティアスタートでありました。又、女性ボランティアが半数以上であった事も不安材料の一つでしたが、選手が一人二人と折り返すに従いそんな不安はどこやら…。抜群のチームワークと女性ボランティアの方の力強い頑張りでも無事一日を終える事ができました。

唯一残念であったのは、今年は都合により準備できなかった団子汁を境港折り返し地点の名物として楽しみにしている選手の方が以外に多く、期待に届いてあげられなかった事でありました。来年は是非団子汁を復活させてあげたい。

最後に暑いなか頑張って頂いた一般ボランティア、鳥取銀行そして青年中央会の皆様方に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。



平成9年度 新委員長抱負

政治行政委員長 長谷川 郁



今年度政治行政委員会という伝統ある委員会を担当させて頂くことになりました。その名前の重厚さに負けずにあくまでも私なりに自然体で望みたいと思ひます。いろいろな面で日まぐるしく変化している時代ではありますが、何も難しく考えず身近な所に問題意識を持ち、何か一つでもこの一年間の活動を通じて発見できればと考えております。これからの一年、メンバーの皆様、様々なご意見もあるとは思ひますが、どうぞ自分自身にとってプラスになる委員会活動をしようではありませんか。宜しくお願い致します。

社会プロブレム委員会委員長 安部 利夫



文字どおり“社会問題”がテーマでありますので、様々な観点から社会問題をとりあげ勉強してゆくこと、そしてもう一点は会長のスローガンである「自己責任」のもと、永遠のテーマである出席率向上の問題を考えて活動したいと思ひます。

中央会に入会して11年目を迎えました。未熟な私ではありますが、これまでいろいろと御指導いただいた先輩、OBの教えを糧とし、一年間委員長を全うしたいと思ひますので、よろしくお願い申し上げます。

地域ビジョン委員長 北野 実



平成6年1月に入会致しまして、まだ3年半やっとの会の流れが分かりかけた矢先、突然の委員長指名の話私には、とても無理なことだと思ひましたが、これも一つの試練だと思ひ引き受けました。

なんとか恥をかきながら一年間頑張りますので宜しくお願い致します。

本題の抱負ですがテーマは、継続事業として「地方広域合併」を載せています。最近新聞紙上で中部の方では、話がもち上がっています、近いうちに西部も話がもち上がって来るかも知れません、その時のためにも勉強をして次の委員会に引き継ぎたいと思ひます。

経営委員長 松本 弘志



今年度の経営委員会は、会長よりご指示いただきました「規制緩和」を中心テーマとして勉強していきたいと思ひます。「規制緩和」はこれまで享受していた利権などがなくなる反面、新しいビジネスチャンスも生んでくれます。皆がかかえている共通テーマとらえて頂いて、メンバー一人一人のご協力を仰ぎながら、全員参加型の委員会をめざしてがんばりたいと思ひます。

情報メディア委員長 小林 慎一



情報メディア委員会委員長を務めさせて頂きまます小林です。他の委員長と比べて劣りますがみなさんのご協力をもって、1年間がんばりたいと思ひます。よろしくお祈りします。

情報メディアは、継続事業であり前委員長にお聞きしますと、会員個々で理解度に大差があり非常に足並みが揃えにくかったようですが、今年度も同じ事が言えます。まず、この世界は大きな広がりを持ち、探究するには1年ではむづかしいことが、うかがえます。

そこで、現在関心の高いインターネットと情報通信の急速な発達で生じる問題を軸に、委員会活動を展開して行きたいと思ひます。委員会のみならず、おおいに楽しみましよう。

金融委員長 山本 泰彦



小原会長より、お前は金融委員会、なおかつテーマは「日本版ビッグバン」だと決めつけられるように当委員会は発足した。

新聞紙面においては毎日の様に見かける単語なのだが、いざ「それはなに？」と聞かれても明確に答えることができない自分にあせりを感じ、本の学校にすぐわかるシリーズを買いに走ったのは、私も副委員長も同じであった。

初顔合わせの委員会で「ビッグバンをやらねばならぬ」と号令をかけた時、出席者全員の顔が「何じゃそりゃ」と反応していたように思えます。この正体不明の、そして難解な怪物の生態を一年間研究したいと思ひます。

テーマが堅いだけに委員内での行動はあくまでラクにと心がけるつもりです。

広報委員長 山中 隆司



小原会長のスローガンであるResponsibilityを胸にきざみ、今年度広報委員長を拝命いたしました山中です。会員の皆様に親しまれ、愛される会報誌となる様委員会全員の英知を結集し、友愛と団結の心で頑張りますのでご支援の程宜しくお願い申し上げます。

広報委員会より皆様のもとへ取材に伺いましたら、暖かくお迎え下さいます様お願いいたします。

総務委員長 角田 祐司



今年のスローガン“自己責任”の意味をよく理解し、青年中央会の一委員会として、各委員が、誇りをもって積極的に自分たちの会を創っていきけるような委員会にしたいと思ひます。

また、青年中央会全体の円滑な運営をサポートする事を、委員会活動の中心として取り組んで行きたいと思ひますので、委員会並びに、青年中央会会員の皆様方の御指導、御協力を賜ります様、宜しくお願い致します。

21地球委員長 大野木 昭夫



今の時代は、戦後の工業化時代から情報化時代へと大きく変化しつつあります。そして、工業化の結果は、私達を取り巻く環境の悪化という姿で現れています。我が委員会は、この環境問題をテーマに取り組みます。

活動は会員相互のコミュニケーションを図りながら「いい加減」委員会を目指します。風呂の湯加減でいえばあまり熱くもなく、ぬるま湯になり過ぎないように、みんなの「いい加減」を目指します。

鳥取県中小企業青年中央会通常総会開催 ～県会長に西部秋田導秀氏に決定～

7月4日(木)倉吉シティホテルにおいて第23回通常総会が開かれた。森県会長を議長とし、第1号議案・第2号議案の平成8年度事業報告及び決算書・平成9年度事業計画及び予算案は無事承認された。つづく第3号議案では西部より我が秋田導秀氏がこの日のためにかけつけた多くの会員の拍手をもって新しい県会長に承認され、素晴らしい挨拶で総会をしめくくった。

このあと、元オムロン倉吉(株)社長、前倉吉商工会議所副会頭である戸水秀一氏より『元気な京都企業に学ぶ』を記念講演として貴重な話をうかがう。

京都は意外にも、製造業に関しては川崎・北九州に続くNO.3の工業都市であり、日本を代表する企業が多く存在する。それらの企業の特徴としては、老舗が多い、堅実経営、技術志向、高付加価値化などがあげられる。これに対して氏が11年間の鳥取在職中に感じられた点として、①「煮えたら食おう」からの脱却(「誰かがやってくれるだろう」ではなく、

9年度鳥取県中小企業青年中



自分自身ですること＝小原会長のいう「自己責任」②人口が少ない、地価が安い、都市圏から遠いなどをマイナス要因ではなくプラス要因として考える。③仲間よりお客を第一に。などを指摘された。

耳に痛い内容も多いが、こうした事実を直視して「ナンバー1」より「オンリー1」企業へ、「受注型」から「提案型」企業への発展・転換をはかりたいものである。

△会長＝秋田導秀(米城商事) △直前会長＝森敏昭(三和段ボール工業) △副会長＝矢谷英志(矢谷印刷所) 大前拓也(OMAE建築設計事務所) 小原得雄(司法書士小原得雄事務所) △理事＝岡博由貴(エーアンドビー) 古南謙太(こみなみ) 松島勇(松島工芸) 中尾貴則(中央建設) 野広悟(ノヒロ葬儀社) 小木暁保(寿ウッドセンター) 岩田慎介(福栄) 谷口勉(さんれいフーズ) 桑垣英二(日本海情報ビジネス専門学校) △監事＝倭島昭博(和島鉄工所) 田原隆志(共栄物産) 渡部光典(すし弁慶)

小原丸 堂々の出港 平成9年度鳥取県西部 中小企業青年中央会総会開催される

平成9年度西部総会が去る7月15日、ホテルサンルート米子にて開催された。総会には89名の会員が出席し、8年度事業報告、収支決算書、9年度事業計画、収支予算が原案通り満場一致で可決された。

総会に先立ち、松本会長が「1年を終え、会員各自の『自己変革』の成果を更に生かしてほしい」と挨拶。引き続き卒業式に入った。卒業式では角田元県会長、藤居20代会長、阿部直前会長の三氏に感謝状を贈呈、卒業生17名に卒業証書の授与が行われた。卒業生一人一人の名前が呼ばれると次々に登壇、松本会長と堅い握手を交わしながら卒業証書と記念品を受け取った。卒業生を代表して高岡会員が「力、技、英知を生かしてこれからも頑張りたい」と挨拶、会員一同は万雷の拍手で見送った。卒業生の新たな活躍を心から祈念してやまない。本当にご苦労様でした。

総会の後、OB25名、来賓5名をお招きし懇親会が行われた。角田新総務委員長の開会宣言の後、小原新会長が「会員各自が自らの存在の根拠を示すべく、4つのスローガンのもとに1年間頑張ろう」と挨拶。続いて来賓の斧谷県中小企業団体中央会会長よりご祝辞を頂いた。またこの度OB会長に6期卒業の鶴田氏が就任され披露された。現役会員の表情も和んできたところで皆勤賞11名、精勤賞26名の表彰、そして最優秀・優秀委員会の発表が松本会長より発表された。優秀委員会賞は総務、最優秀委員賞は地域ビジョン委員会を受賞、登壇した両委員会のメンバーの晴れやかな笑顔が印象的であった。

来賓の松岡氏の乾杯の音頭で宴も最高潮に達し、恒例のトライアスロン壮行式で会場の心はまさにひとつになった。新総務委員会の初仕事で“新生小原丸”は力強い航海の一步を踏み出した。



第17回 全日本トライアスロン皆生大会

特集

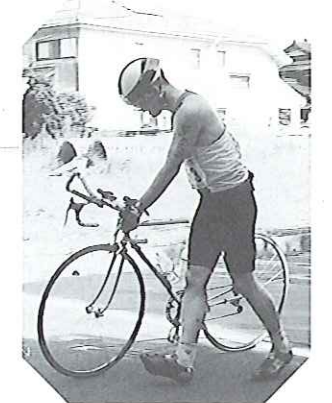


トライアスロンを振り返って ボランティア部長 畑中 経之



今年には地域で大きなイベントがあり、皆生トライアスロンのボランティアの集まりが例年になく悪く、更に集まったボランティアのキャンセルも相次ぎ、競技前日まで人集めとボランティアの方の配置に苦戦をしました。その為に、食事・椅子の数と配付場所、送迎の人数と時間等が競技前日まで最終決定できず、トライアスロン実行委員会の食料部・輸送部・設営部等他の部署の準備作業にも影響が出、改めて皆生トライアスロンでのボランティア部の役割の重大さを感じました。こういった状況の中、競技当日のボランティア部の運営が心配されましたが、ボランティア副部長の方が中心になって、部員の皆さんが与えられた役割を責任を持って消化していただきましたので、大きな問題も無く、17回日の皆生トライアスロンを無事終了する事ができました。

参加いただきましたボランティアスタッフの皆さんと3千人のボランティアの皆さんに心からお礼を申し上げます。



マラソン部長 景 幹雄



マラソン部長も今年には2回目、多少楽ではないかと思っていた所、みたと博の為、大幅なコース変更で、又、コースポイント、エンドステーション設定と、1から始まった第17回大会でした。

それにもまして大会当日は、みたと博とコンサートが重なり、コース上の交通量、人の流れ等がまったく予想がつかず、何か起こらなければと……。

やはり予想が悪い方へ当たり、コース上の車の移動のお願い、特にしんかわストア前の大型保冷車2台がコースをふさぎ、にわかにはバリケードを設置し、コースを作り選手の誘導を行ったり、大会本部よりみたと博のお客と選手の接触等があるので、コース変更を考えろと指示が出たり、その対応に走り廻ったりと例年になく色々な事が会った第17回の大会でした。

しかし、事故もなく終える事が出来ました。

これも暑い中、松本会長自ら汗だくになっての備品の水洗い。景川副会長には前日朝から夜迄の応援、各委員会からの応援、マラソン部スタッフの6月始めからの事前準備があつての事だと思います。本当に皆様の応援ありがとうございました。

